

野外調査とニホンジカ 生態系の変化と感染症に注意



ニホンジカのふん

このシリーズでは、環境生活センターの仕事を紹介します。

環境協の
環境生活
センター

① 環境保全課

私たちの身の回りにいる大型の野生動物といえはツキノワグマ、イノシシ、シカ(ニホンジカ)が挙げられるでしょう。広島県の山の中にもこれらの獣がすんでいることはよく知られています。先日広島市の市街地にニホンジカが出没し、大捕物になったのは記憶に新しいことかと思います。

最近、ニホンジカをよく見かけるようになり、環境保全課では、野生動物の調査を担当しています。調査で山道や林の中を歩くと、シカのふんを見かけたり、鳴き声を聞いた

SFTS(重症熱性血小板減少症候群)とは

2011年に初めて特定された新しいウイルス(SFTSウイルス)による感染症です。ウイルスを保有しているマダニにかまれることにより感染します。潜伏期間は6日~2週間程度です。主な症状は発熱と消化器症状(おう吐、下痢など)が中心で、倦怠感、リンパ節のはれ、出血症状なども見られます。

り、時にはシカそのものを見ることもあります。広島県の資料によると、平成25年のシカの捕獲頭数は8千399頭です。平成12年頃には一千頭ほどでしたが、約10年で8倍に増えていくことになりました。野外でシカを見るようになったのも最近のことです。急激な増加とよ

く合います。シカの増加による悪影響もあります。シカはいろいろな草や樹木を食べるため、シカの多い地域では、背の低い植物が極端に少なくなりました。残っているのは、ほとんどが毒のある植物です。そして、シカの食害により生態系への影響や土砂の流れ出しが懸念されます。

もつと心配されるのがマダニです。昨年

続・一歩先へ衛生管理

広島県
食品自主
衛生管理
認定マーク

県は、食品衛生基準を満たした製造・加工施設について、独自に認証する制度を実施しています。適合した施設は、商品に「認証マーク」を貼ることができます。当協会は認証機関として、食品衛生管理の認証・更新審査や指導などを行っており、このシリーズでは、当協会が認証した事業者の声を紹介し、食品衛生管理の重要性を伝えていきます。

① 牡蠣屋セントラルキッチン

認定日:平成26年7月
所在地:廿日市市宮島486
創業:平成26年4月
話し手:工場長 畑賀 大介様

時代にあった衛生管理を実施

宮島でうまいものを考え、追求し、提案する

■業務内容
牡蠣屋株式会社は「牡蠣屋」牡蠣祝(かきわい)の2店の飲食店経営とお土産物の製造・販売を行う「牡蠣屋セントラルキッチン」の運営を行っています。お土産の主力商品は「牡蠣屋のオイル漬け」です。素材の鮮度はもちろん、産地や品質、大きさにこだわり、1つ1つ丁寧に作っています。「宮島で全てをつくる」というポリシーを持って事業を行っています。

また、商品開発にも力を入れており、大学と協力して研究をしています。■認証取得のきっかけと成果
工場を新設するにあたり、時代に沿った衛生管理が必須だと考え、認証取得に踏み切りました。■安全・安心なおいしい商品をお届けするため、素材を厳選し、最新の設備のそろった工場です。かきに携わってきた経験をもとに、うまいものを考え、追及し提案し続けています。併せて、食品ロスの削減にも力を入れており、現在、おむね食品ロスゼロを達成しています。

また、新商品「牡蠣醬(かきひしお)」は世界初となる独自製法により、究極のかきしょうゆとして作りました。1瓶あたりかき40粒を使用し、化学調味料、保存料、添加物などは一切使っていない自信作です。ぜひご賞味ください。

インタビュー:高橋 記事:馬場田

公衛協 ア・ラ・モーニング

26 東広島市川上地区【企画づくりコース】

取材に伺った18日は、雨の予報のため予定を早めての作業となり、推進委員とゲートボール同好会の7人が集まりました。作業中、「プランターの中は、パンジーの色を合わせたほうが遠くからも見えて美しい」「列をずらして植えたほうが奥行きが出てきれい」「やっぱり花があると空間がやさしくなる」など、さまざまな話が飛び交いました。プランターには、鮮やかに事業名や公衛協名を書き入れました。今後、毎月1回の定例活動日を設定し、手入れや次のシーズンに植える花や野菜などを関係者が一緒に検討、親睦会や反省会を企画するなど、川上地区のスマイルフラワーが咲き誇る計画です。「この事業をきっかけにして、公衛協の認知度を向上させる。そして、地域のスマイルとフラワーを増やす。」と意気込む西本さん。これからの活動に期待します。(地域活動支援センター)

3月17日・18日、東広島市八本松の川上地区公衛協では、公園や空き地に花を植え、地域の対話の場、そして笑顔をつくることをねらいとした「川上スマイルフラワー公園大作戦」がスタートしました。この活動は、公衛協地区理事の西本慶子さんが、市の住民組織の再編に伴い公衛協活動が見えにくくなる中、存在感を出しながら地区のコミュニティをどう守るかを考え、温めていたもので、1月に実施した専門研修「企画づくりコース」がきっかけとなり具体化しました。地域の関係者への事業の趣旨説明を経て、この度、17日に妙穂保育園、18日に川上コミュニティーセンターにパンジーの花を植えたプランターを設置しました。花の世話、推進委員はもちろん住民自治協議会、女性会、ゲートボール同好会メンバーや近隣住民と一緒に計画です。

10年を目標に公衛協の新たな継続事業

「川上スマイルフラワー公園大作戦」始まる

バンジーを植えるメンバー